

令和6年度第1回仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 令和6年8月26日(月) 午後1時30分

開催場所 仙北市役所田沢湖庁舎 3階 第1会議室

出席者

(構成員)

仙北市長	田口知明
仙北市教育委員会教育長	須田喬
仙北市教育委員会教育長職務代理者	坂本佐穂
仙北市教育委員会委員	橋本勲
仙北市教育委員会委員	細川伸也
仙北市教育委員会委員	田口桂一郎

(市長部局)

副市長	赤上陽一
総務部長	大澤裕司
総務課長	猪本博範
総務課主事	佐々木明日香

(教育委員会)

教育部長	阿部聡
教育次長	福田裕司
教育総務課長	湯澤満
学校適正配置準備室長	若松正輝
学校適正配置準備室参事	毛利俊介
学校教育課長	丹野広史
学校教育課建設専門官	草薨雅人
北浦教育文化研究所長	斉藤丈彦

案件

- (1) 白岩小学校閉校式の開催について
- (2) 学校適正配置に関する市民意見交換会の開催報告について
- (3) 学校再編の方向性と今後の進め方について

大澤総務部長 皆様、お疲れ様でございます。ただいまから令和6年度第1回仙北市総合教育会議を開会いたします。はじめに、会議の主催者であります田口市長から挨拶をお願いいたします。

田口市長 皆さんこんにちは。月末のお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。早いもので、今週で8月は終わりをまして、今年に入ってからもう3分の2が経過するところでございます。本日の総合教育会議の主な内容については、白岩小学校の閉校、そして学校適正配置の住民説明会についてご報告を申し上げるところでございます。非常に市にとってですね、今後の仙北市の教育のあり方に関わる重要な案件となりますので、どうか忌憚のないご意見をいただければと思います。

また、余談になりますが、先週日曜日から4泊5日で佐竹知事をトップとして、台湾へトップセールスに行きまわりました。特に仙北市の場合は、台湾の高校とか中学校を回らせていただきまして、今年は11月に角館中学校は恵文高級中学、また角館高校も師範大学附属高校へ生徒が伺う予定となっております。両校の校長先生によろしく伝えてまいりました。

こういった教育交流や相互にお互いが行き来するということは非常に仙北市にとって特徴的な取り組みでありますし、全県でも最先端の取り組みであると思っております。今後も市としては、海外との交流を通じて、仙北市内の子どもたちのそういった国際感覚や様々な学びの場を提供できるように、市長としても全力で取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは本日、長丁場になりますがどうかよろしくお願ひします。

大澤総務部長 田口市長ありがとうございます。次に、須田教育長からご挨拶をお願いいたします。

須田教育長

本日ここに、田口市長、赤上副市長、大澤総務部長、教育委員の皆様参加のもと、令和6年度1回目の仙北市総合教育会議を開催できましたことに感謝申し上げます。本日は、教育委員会事務局から、学校適正配置に係ることについて提案、報告させていただきます。

さて、学校適正配置準備室が教育委員会事務局内に開設されてから3年が経ちました。この間、学校適正配置について、住民の皆様や保護者の皆様と丁寧な意見交換を行ってきましたが、その数も100回になろうとしています。参加者も延べ1,500人になりました。また適正配置に関わるアンケートも市民や保護者、児童生徒、高校生や成人を迎える方々など幅広い層から延べ7回にわたり、実施しました。その実数も4千人を超えます。この意見交換会やアンケートから寄せられた意見を基に、定例の教育委員会や学校適正配置検討委員会、そしてこの仙北市総合教育会議、並びに議会全員協議会で協議された結果、まとめられたものが「仙北市立小・中学校適正配置計画骨子案」です。その中で仙北市における持続可能な学校教育環境を維持するためには、学校の再編は避けられないことが確認されました。また、再編方法については小・中学校のそれぞれの統合によることも確認されております。先月にはこの骨子案に基づき、小・中学校の統合について具体の四つのパターンからなる「再編試案」を提示し、それをたたき台にして意見交換を行いました。その結果も含め、本日は事務局から更に踏み込んだ具体の案も提言させていただきます。どうか、様々な視点から意見を伺いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

なお、最後に市当局へのお願いですが、学校統合するにあたり、教育委員会だけでは解決できない事項がたくさんあります。例えば、神代小は上水道が通っておらず、停電の際には数時間で下校させなければならない学校であります。上水道を通すか、もしくは強力な発電機の設置が必要となることが確認さ

れています。また、西明寺小はすぐに水がつく状況にありますし、駐車場が狭いという課題もあります。放課後児童クラブの場所の確保も必要であります。統合小学校ができた際には、県ではほとんど行われていないスポーツ少年団の送迎が可能か調査するつもりですが、スポーツ振興課との連携も必要であります。

この後、統合に関わり、様々な課と連携して行わなければならない事項がたくさんあります。大仙市では統合するにあたり、部や課をまたぐ委員会を設置したそうですが、本市では、政策調整会議になろうかと思えます。この政策調整会議を統合前にかかなりの頻度で開催していただく必要があります。9月の政策調整会議では、他課との連携について必要な事項を洗い出して問題提起をさせていただきます。

それでは本日の会議よろしくお願ひいたします。

大澤総務部長 須田教育長ありがとうございました。それでは協議案件に入ります。本日の案件につきましては、次第にありますとおり、3件になります。ここからの進行は田口市長からお願ひいたします。

田口市長 それでは私の方で進めさせていただきます。はじめに今回の議事録署名委員は須田教育長と橋本委員のお2人にお願ひしたいと思います。よろしいでしょうか。議事録が完成次第、署名していただくこととなりますので、どうかよろしくお願ひします。それでは協議事項に入らせていただきます。はじめに、白岩小学校閉校式の開催についての説明をお願ひします。

若松学校適正配置準備室長 はい。それでは、私の方から、白岩小学校閉校式の開催について説明いたします。角館小学校と白岩小学校の統合ですが、来年4月ということで確定されております。それまで約7ヶ月前ということになりました。この統合が形だけとならないよう

に、子どもたちに一体感が生まれ、また笑顔があふれる学校生活のスタートを切れるように、現在、交流活動の実施ですとかスクールバス等の諸準備を進めているところであります。

白岩小学校は、明治7年の開校から150年の長きにわたり、社会の担い手となる子どもたちの学舎として、大きな役割を果たしてきました。また、地域にとってはコミュニティの拠点としても住民に親しまれ、活性化に大きく寄与してきました。今年度いっぱい閉校するにあたり、学び舎に感謝し、心に残る閉校式を行いたいと準備を進めています。

開催日時ですが、11月23日土曜日の勤労感謝の日となります。午前10時から11時までを予定しております。場所は白岩小学校体育館です。

式では、市長式辞、来賓あいさつに続きまして、子ども達の呼びかけ、校歌斉唱などを行います。校舎内では思い出の展示コーナーを設けたり、映像を放映したりする予定です。

出席案内者は、県・市の議会・行政関係者や、歴任教職員、学校医、日頃ボランティアで協力してくださっている方々など約250人を予定しています。会場スペースの都合上、入場は最大400人までとなります。上限に達するまで地域住民を含め市民の出席について一般募集を行う予定です。また、閉校式終了後ですが、昼からグランデールガーデンを会場としまして、閉校記念事業実行委員会の主催で、思い出を語る会と銘打った懇親会が行われる予定です。

当日は小学校周辺の駐車場に限りがあることと、引き続き懇親会へ参加する方の利便性を考え、旧角高グラウンド駐車場から白岩小学校まで往復送迎バスを運行し、途中の藪田と広久内からも乗降車できるようにしたいと考えています。

開催案内については、10月1日頃に案内状を発送すると同時に、広報せんぼく等により一般募集を行う予定です。思い出に残る閉校行事を、引き続き、地元の実行委員会と連携して準備していきます。資料はありませんでしたけれども、以上とな

ります。よろしく申し上げます。

田口市長

はい。それでは白岩小学校の閉校式について、説明がございました。教育委員の皆様からご質問やご意見がございましたら、お願いしたいと思います。閉校式については特段問題ないかと思いますが、この内容でよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。それでは続きまして、学校適正配置に関する市民意見交換会の開催報告について説明をお願いいたします。

毛利学校適正  
配置準備室参  
事

はい。それではA3版横の資料について、ご説明いたします。まずは、令和6年度小中学校適正配置に関する意見交換会の開催状況です。6小学校区の公共施設を使って行いました。7月8日の神代を皮切りに、最後は7月22日に生保内で開催しました。出席者については下にまとめてあるとおりです。合計55名の方に参加いただきました。内容といたしましては、中ほどに書かれている、まずは、教育委員会事務局から適正配置計画骨子案、学校再編（試案）、保護者アンケート結果についてご説明し、その説明した内容を受けて、意見交換。テーマとしては、「みんなが納得できるよりよい学校再編は？」ということで、グループごとに分かれて協議をしていただきました。そのグループごとに分かれた各地区の意見交換の内容が、裏に載っているカラー刷りのものです。

この内容に入る前に、この意見交換会では、どの地区においても、事務局からこれまでA、B、C、Dの四つの再編試案を示していましたが、アンケート結果から「A. 旧町村ごと」の試案は人数規模が小さいため、すぐ再統合にもなるかもしれないという不安の声や、反対の意見が多かったです。また、「D. 全市で1校」という再編試案についても反対の意見が多く、心配の声としては、通学負担、そして市の財政は大丈夫なのかというような声が多かったこと、そして、私達

も非現実的な案ではないかということで、全地区で話し合う前に、BとCに絞って話し合っただけというふうには、最初に提案をさせていただきました。ただ、どの案について話し合うかはグループにお任せしました。ということで、その結果に説明を移したいと思います。

まず、赤い文字は各案に対するメリット・期待です。そして、関連付けといたしまして、同じものに色づけをさせていただきました。では、一番左側、全地区ではなく、複数地区からの共通意見です。A案はありません。B案については、集団の良さを味わえる、通学の負担が他の案と比べて比較的軽い、地域の良さが伝えられる。課題としては、角館と生保内が単独という案ですが、その中でも生保内が単独だと、人数が心配である。そして、たとえ統合しても再統合の可能性がある、という不安の声がありました。他の地域からですと、神代地区からは部活動が選択できるか、3校統合しても人数的には心配だという声です。また、中学校進学時に、田沢のときと同じようにどんどん部活を目的に流出していつてしまうのではないかと心配の声もありました。桧木内についても、3校統合ではありますけれども、人数がぐっと多くなることで、それによる問題が生じるのではないかと心配の声も多数ありました。

続いてC案です。複数意見としましては、同じく集団の良さを味わえる、財政的なメリットが大きい、校舎の維持管理費に関してです。そして、D案より早めの統合が可能だという意見です。これに関しましては、角館が仙北市内では一番大きな人数の学校です。そちらは単独で他4校となると話がまとまりやすいのではないかと意見でした。課題・心配については、やはりこれも10年後、また再統合の話が出てきそう、そして、やはり通学の時間が大きいこと、校舎の活用についてどうなっているのか、などたくさんあります。そして、他の各地域の意見としましては、やはり生保内の方が

らは、角館に次ぐ大きな街ですので、生保内を中心にしても良いのではという意見もあります。また、始業・就業時刻についてはどうなるのか、やはり通学距離時間が増えますので、もっと遅らせることができるのかというような意見です。神代からは中学生も児童クラブがあれば良いということで、やはり通学の時間や迎えに行くまでの時間が長くなるということで、このようなことをできるのかという意見です。

続いて、D案です。同じく集団の良さを味わえる、そして、D案については、適正配置計画に示している「クラス替えできる規模を確保する」というものが、長期間にわたって確保できるということで、適正な規模の確保、学校活動の補償、部活動など選択肢の増加、などが挙がっています。そして、仙北市全体が地元という捉え方をすることで、仙北市の良さを学校の授業で学べるのではないかという意見がありました。先ほどからお話しているとおり、通学の負担、または新築の費用の心配など、財政面についての懸念がありました。各地区としては、先ほどお話ししました角館は、一番人数規模が大きい地域ですので、角館が他の地域に移動するのはコストが高いということで、角館に来るのが合理的ではないかという意見です。一方、公平性を考えて市の中央に設置するのが良いのではないかという意見も出てきます。やはり、通学に対する心配が各地域から出されています。

その他に、特に私達が意見交換会の参加者の方の意見を聞いて印象に残ったのがその他に書いている部分ですが、白岩のところ、市の考えを示してほしい。生保内のまちづくりをどう考えるか。そして神代、市が具体案を出せば本気になるということで、これまで私達はこのようなくくりではどうですかという案は示してきましたが、そうなったら通学体制をどうするか、校舎の場所をどうするのかというような具体的な詳細なことについては言及してきませんでした。そろそろそういうことを言わないと議論が進まない、という厳しい意

見をいただきました。

ということで、意見交換会の内容についての報告は以上です。

田口市長

はい。それでは意見交換を実施した結果について報告がありました。こちらについては全員の方からご意見、ご質問いただければと思います。橋本委員の方からお願いしたいと思います。

橋本委員

今回の意見交換会では、皆さんが話し合っただけで意見を出し合うという形になって、自分の考えを用紙に書き込むという方法をとっておりましたので、参加した皆さんが考えていることをそのまま本音として出していただいたものと思いますので、ここにまとめられている意見を重要視しながら進めていただきたいと思います。

最後に、毛利参事からお話があったように、ある程度の時期で市の考えを示すということがやっぱり必要だと思いますので、A案からD案までありますけれども、いろんな条件や要素、校舎のこと、財政のこと、そういったことを考えると、やっぱりある程度、候補の案というのは絞られてくるのではないかと思いますので、然るべき時期に市あるいは教育委員会としての考え方を1回示して、更に皆さんの意見を伺うことが必要ではないかなと思います。

田口市長

ありがとうございます。それでは、田口委員お願いします。

田口委員

先ほど教育長が、これまでの丁寧な説明と協議の開催について、具体的な数字を示してお話してくださいましたけれども、これまで3年間の地道な説明、啓発といいますか、実態あるいは学校教育の現状や課題を丁寧に説明してきたことが、しっかりと浸透してきて、それを踏まえた上での意見が

出されてきているなど、それを理解した上での建設的な意見も多く出されてきているのかなということや、地域の実情にこだわったといいますか、これまではどうしても自分の地域に学校を残してほしいという声がどちらかというところが多かったような気がしますけれども、統合は避けられないという方針のもとで様々な説明を繰り返してきた成果が、だいぶ市民の方も保護者の方も理解を示して、建設的な意見を出していただいているというふうに思います。

今回も具体的な課題が更に意見交換の中で出されているのかなという印象を受けました。出された内容については、これまでの保護者との意見交換やアンケート調査の結果でも出てきている内容ですので、こうしたことも踏まえながら具体的なA案からD案に絞った形での、更にもう1回絞った案をそろそろ示す時期になってきたのかなという印象を持ちました。

橋本委員からありましたけれども、そろそろやはり市としての具体的な案を示して、更に煮詰まった、それを踏まえた意見交換・議論を深めていく時期に来たのかなという印象を持っています。この後の話し合いにも出てくるかと思えますけれども、具体的にはやはり今後、生保内地区の動きがキーポイントになってくるのかなという印象を持ちましたので、生保内の方々との議論を深めているところもあるようですので、具体的な案を示しながら、今後どうしていくのか議論を深めていく時期に来たと感じております。以上です。

田口市長

はい。ありがとうございます。では、細川委員お願いします。

細川委員

はい。意見交換会を重ねてきまして、やっぱり神代地区のその他から出た「市が具体的な案を出せば本気になる」という意見が決定的だと感じました。市が具体案を出すことによ

って、市民の方々が納得できるだとか、いろいろ具体的に話が進んでいける形になってきていると思います。

田口委員がおっしゃったように、やっぱり生保内地区の考え方とかっていうこともありますけれども、やっぱり市としてそこを踏まえつつ、やっぱり残りの地区の方々にも具体的な案を出せば、これから先も進んでいけるのかなと思います。以上です。

田口市長            はい、ありがとうございます。では、坂本委員お願いします。

坂本教育長職務代理者    はい。これまで長い時間をかけて回数を重ねて、特に準備室のスタッフを中心に、丁寧な話し合いをしてきたことがここに表れてきたのではないかなと思っております。非常に具体的な案も意見も出されております。それから課題や心配ももちろんありますが、メリットや期待も非常に多いということが、非常にプラスの方向に動いているのではないかなと感じております。

そして、ここまでは市民を中心に丁寧な話し合いを進めてきたわけですから、やはり他の委員さんもおっしゃったように、ここにきて然るべきときが来たのかなという印象を受けます。市の考えを示すだとか具体案を出してほしいというような声を大事にして、またここから大きく変わるところまで来たような気がします。以上です。

田口市長            4名の教育委員全員の共通の意見としては、市の具体的な考えを示すべきだというご意見をいただきました。皆様が懸念されているように、やはりこの問題というのは地域にとって大きな影響が出ますので、特にご指摘のとおり生保内地区において、今後の学校のあり方っていうのは非常に関心が高いです。私も生保内出身ですので、今回、学校適正配置では

なくて、庁舎再編で住民説明会を行った際に、生保内地区の方々からの凄まじい厳しい意見というか、見捨てるのかということまで言われたのですが、生保内で生まれて育った私に対してここまで強く言うということは、すごくそこに不安を感じているところもあると思います。本庁舎を移転させるという提案に対してもそこまでの反応でしたので、特に生保内小・中学校に関わる学校適正配置については、もっと地域の皆さんにとっては重要であり、感情の琴線に触れるということについては、皆さんの中でも多分共通認識だと思います。

それを踏まえて、教育委員会準備室の方で、丁寧にまずは皆さんの意見を聞くということで、これだけの回数の説明会・意見交換会を実施してきましたので、多分それを踏まえて皆さんからもいろいろな意見を出していただいた上で、そろそろ具体的な方向性を示すべきだという段階にきたのかなと、皆さんの意見を聞いておりました私自身も感じております。これを踏まえなければ、なぜそうなったのかということで、感情が変わってしまうこともありますので、今後につきましては、委員の皆様のご指摘のとおり、次の協議案件にもありますが、教育委員会と市で方向性について具体的な提案をしていけるように取り組んでいきたいなと思っておりますが、教育長としてはいかがでしょうか。

須田教育長

はい。一番私が印象的だった意見は、桧木内地区に行ったときに、桧木内地区のある保護者の方から、5年前に桧木内地区の統合問題が出たときに、私は反対して、泣いて訴えた。しかし、今は状況が全く違う。統合は避けられないということで、時間をかけて意見交換会をした結果として、桧木内地区でもそういう意見が出ました。先ほどの生保内地区も含めまして、更に具体案を出した後、丁寧な合意形成を図っていきたいと考えております。

田口市長

はい。そうすればこの学校適正配置の市民意見交換会に関しては、市と教育委員会とともに今後具体的な方向性を示し、取り組むということによろしいでしょうか。他にも、もしご意見あればお聞きしますが、よろしいですか。はい、ありがとうございます。それでは続きまして、学校再編の方向性と今後の進め方について説明をお願いします。

若松学校適正  
配置準備室長

それでは案件三つ目の学校再編の方向性と今後の進め方について説明を申し上げます。委員の皆様から、また市民の方々からも意見があったとおり、これからは具体的な案を示して議論していく必要があると思います。

資料をご覧ください。今年に入りまして、4月から学校適正配置計画の骨子案及び四つの学校の組み合わせを示した学校再編試案を市民に提示し、より望まれる再編を目指して作業を進めているところです。4月には全てのこども園、保育園、小・中学校のPTAも回りまして、この試案を説明し、保護者が望ましいと考える順位をアンケートで伺ったところであります。また、7月には意見交換会を開催しまして、より皆さんが納得できる再編に向けたご意見をいただきました。今後、これらを踏まえて学校再編の方向性を資料のとおり定めまして、進めていきたいと考えているところであります。

資料の左側をご覧ください。四つの再編案に対し、市民からの意見をまとめております。また、それを踏まえた方向性を赤い文字で整理しております。小学校と中学校はそれぞれ同じ方向性ということになります。ただし、米印で記しておりますが、中学校と小学校が、同じ案になるという必要はありません。例えば小学校はB案、中学校D案だということも可能となります。一つ一つ見ていきます。A案これは旧町村ごとに一つに統合するというものであります。これについて市民の皆様からは、アンケートでは各地区で統合を望まない

声が挙がっており、理由は人数規模が確保できないというところが一番大きかったです。市民の意見交換会でも、望ましい学校の維持、確保は今後困難であるということで、望まないという意見がほとんどでありました。それを踏まえて、これは今後、現実的な案にはならないだろうということで、今後の再編の候補からは外したいということでもあります。

次にB案です。これは生保内、角館を単独で残していくというものです。昨年12月に行ったアンケートにおいて、生保内の皆さんからは、単独と統合という回答が半々でした。それを踏まえてこのB案を設定したものです。しかしながら、角館以外の小・中学校は、今から10年後の令和17年度までに、目指す学校規模とした少なくとも20人という規模を維持することが難しくなる見込みとなっています。そうしますと、数年後には再統合が必要になるという状況もありますので、子どもたちをはじめ、いろいろな負担を懸念する意見が多かったです。生保内を単独として残していくかどうかは、今後の検討の最初の大きな分岐点となります。ですので、生保内地区の保護者をはじめ、地域の皆さんによく考えていただきまして、意見を聞いて判断していく必要があると思っております。ということで、このB案につきましては、引き続き候補として残したいと思っております。

次にC案です。C案は角館以外を統合するというものです。令和17年度頃までは、目指す学校規模とした少なくとも20人を維持できる見込みとなっています。各種活動の活発化への期待ですとか、学校運営管理面で効率的であるといった意見が多く寄せられました。一方で、校舎の位置によって通学負担の増加や廃校地域の衰退を心配する意見が聞かれました。また、令和17年度以降の長期見通しでは、目指す学校規模の維持が難しくなる可能性を心配する声もありました。これにつきましても、再編候補の一つとして、検討を進めていきたいと思っております。

最後はD案です。保護者アンケートでは、通学の負担を心配し、全地区から統合を望まないという回答が高かったです。市民の意見交換会の中でも、通学負担等を心配する意見が多くありました。一方で、10年以上の長期にわたって望ましい人数規模が確保できて、学校運営・管理面で最も効率的であるという意見もありました。ですので、ここも今後の再編候補の一つとして残し、より具体的に検討する必要があると考えたところであります。これが市民の意見を踏まえた再編の方向性という形です。まずは、A案は外し、B案・C案・D案に絞って今後進めていきたいというものであります。

そして今後の進め方については、右側に示しております。これからは、より具体的に検討するために、上の部分ですが、使用校舎あるいは財政面のことも含めて、通学体制ですとか、放課後児童クラブのあり方、スポ少活動の体制など様々な条件を加味して検討していきたいと思っております。スケジュールですが、9月から11月にかけて、まずは左にある生保内地区の保護者を中心として地域の皆さんと意見交換をしていきたいと思っております。特にB案ですね、生保内地区を単独とするかどうかについて、主体的な検討を促しまして、一緒に考えていきたいと、納得できる選択を探していきたいと思っております。そして資料右側ですが、これまで地域ごとの意見交換でありましたので、そろそろ学区を越えた意見交換も必要になると考えております。全ての園、小・中学校の保護者、具体的には役員の皆さんを想定しておりますけれども、合同の意見交換会を開きたいと思っております。皆さんが一堂に会して、それぞれが抱える期待・不安など、相互理解を深めながら納得できる再編案をみんなで一緒に考えていきたいと思っております。そして12月になりますと、各学校ではPTAが行われます。保護者の皆さんが、最も参加が多い機会となります。これに合わせて、それまでにまとまった実現可能でより望まれる素案を提示して、意見交換をした

いと思っております。そして、最終的に今年度内には実現可能で皆様に望まれる、計画の素案という形にまとめたいと思っております。

そして、いよいよ具体的な中身の話が次のページからとなります。いろいろ細かい情報を載せましたけれども、市民の皆様と意見交換する際は、よりわかりやすく簡単にまとめたものでやっていく必要があるなど思っております。資料は、3ページにまたがっております。ピンクは小学校、青は中学校、そして合わせた紫色は小中一貫校というものも作っております。基本的な考え方としては、これは3枚とも共通ですが、まず一つは通学負担。これは保護者から一番心配されている部分です。距離の問題、乗っている時間の問題、その軽減に配慮していくというのが一つです。二つ目は、既存校舎の有効活用を優先的に検討するというものです。今ある資源を有効活用していくというものです。三点目はスポ少・部活動です。これも子どもたち、保護者の関心が非常に高い項目となります。活動環境にも配慮したものにしていきたいということで、この三つを基本的な考え方として作っております。

そしてこの表ですけれども、縦にB案、C案、D案を並べています。左から統合の組み合わせパターンです。人数も参考までに、令和14年度時点、17年度時点の人数予測を掲載しております。これは学年の平均人数です。そして、使用校舎案です。これを今度、具体的に示していく必要があると思っております。そしてこの右側にありますいろんな情報を総合して考え、委員会として第一候補の校舎に色づけをしました。B案の場合、角館小学校はそのまま存続し、生保内小学校を残すというパターンです。これは、使用校舎はそのまま生保内小学校の校舎を使うというものと、もう一つは生保内中学校は比較的頑丈ですので、2パターンあるだろうということで載せております。ですが、まずはいろんな負担を考えます

と、この赤の生保内小学校を継続して使っていくことが有利でないかなということで第一候補として考えています。

そして、統合となる3校の校舎をどうするかということでありますが、比較的新しい校舎である西明寺小学校と神代小学校が候補に上がってきます。青い矢印引っ張っておりますけれども、この二つの校舎を比較した場合に、まず神代小学校の場合ですが、校舎の周辺に中学校の部活動に適した施設が整っているということです。神代地区には武道館があり、市民体育館があり、そしてテニスコートも近くにあるということで、非常に中学校の部活動がしやすい環境にあります。一方、西明寺小学校の場合は、隣にこども園がありますので、そちらとの連携・活動がしやすいという利点があります。これを合わせて考えますと、小学校の統合校舎としては、西明寺小学校を活用するのが第一候補ということで考えております。

続いてC案は角館以外の4校が統合の場合ですが、やはり同様に小学校の統合の校舎としては西明寺小学校が第一候補になると考えました。それで一つ留意点ですが、その横に14年度頃に、と書いてある青いところがあるのですが、教室数です。11年度時点では、普通教室が9教室必要ということで、3教室不足しますので、増改築が必要となります。これが14年度頃には不足が解消されるだろうと見込んでおります。そして、このグレーの網掛けしてある校舎ですけれども、右側に「デメリット・課題が大きく困難」と書きました。通学の負担が非常に大きいですとか、あとは新築のパターンで言えば、大規模整備事業として莫大な費用がかかるというところが大きい課題となります。ここは順番に並べた場合、下位となりますので、グレーにしました。

最後はD案です。全市1校のパターンです。この場合には、現実的に考えれば角館小学校の活用になると思っております。ただ、校舎の規模として、通学負担・距離・時間が最も大き

くなるという大きい課題があります。それ以外の校舎は、教室数が不足していたり、大規模増改築が必要になるといったこともありますので、第二候補はなくて、他はグレーとなっています。

続いて右側に通学への影響、スクールバス案を掲載しました。スクールバスは、旧学校をまたいだ通学になる場合にはスクールバスを運行するという想定した運行内容です。記載のところですが、番号を振ってありますが、これは路線数になります。地区が書かれてありますが、乗車する区間、そして時間については、8時学校着とした場合のそれぞれの始発の時刻とになります。B案でいいますと、西明寺小学校とした場合ですが、5路線のスクールバスを運行する必要があるだろうと考えています。5台というのは、子どもたちは様々な地域に住んでいるわけですが、自宅から最寄りの乗れる停留所までの距離を、5、6百メートルと想定して、そこまでは歩いてもらおうということです。それ以上は歩くことがないように配慮して、一筆書きで線を引いたところ5路線必要と出てきたものです。

C案の場合は、面積が大きくなりますので、路線の運行となります。一番遠い鎧畑地区から通う場合には、始発が7時を発車して、8時に学校に着くということです。区間について詳細は書いていないですが、例えば鎧畑から出発する場合には、石神の方にも立ち寄るルートとなります。造道ローソンまで乗せたら、そこからはなるべく早く学校に着くために、田沢湖庁舎だけは停車しますが、それ以外は快速運行するというものであります。

最後にD案です。この場合には更に面積が大きくなって、13路線を用意する必要があると見込みました。一番遠いところが上戸沢と鎧畑地域となっておりますので、この場合、6時台の始発ということになります。通学面に関してどうなるんだってところが保護者の皆さん非常に心配なところで

すので、こうした想定も示しながら意見交換していきたいと思います。

次は校舎の費用の話です。校舎整備費、ここにありますが、統合改修とか長寿命化改修というふうに書いていますけれども、これは整備するにあたって、国庫補助制度が用意されています。下の欄外に米印の2と書いてあるんですけども、長寿命化と大規模予防改修ともに老朽化対策の改修については、令和2年度に策定した学校施設長寿命化計画で想定したものを掲載しています。当時の概算ですので、現在の金額はもっと大きくなるかと思います。角館小学校の校舎も、もう築20年に迫っています。近い将来に改修をしていかなければいけないという時期に来ております。

長寿命化改修については、40年超過した校舎で非常に大きな金額がかかる見込みとなっています。西明寺小学校の場合もそろそろ20年超過しますので、老朽化対応もしなければいけません。補助メニューとしては、統合に伴って必要な改修に老朽化改修も併せてできるということですので、統合改修という名称で書いております。学校の整備費について、B案であれば、角館小学校、生保内小学校、西明寺小学校をこれだけかけてやっていくということになります。

次に、学校施設管理運営費(年間)というものです。整備費については一時的な整備で終わるんですけども、その後年間でどのぐらいかかるのかという、ランニングコストを試算したものです。①については校舎の管理にかかる費用です。これは、施設の補修費、光熱水費また校務員さんの人件費等を含んだものとして試算しております。金額については右下にあります。令和3年度の決算額をベースに校舎の管理費や通学対策費はいくらかかっているのかを細かく調べましたので、それを元に参考資料として試算しております。具体的なところで、一番上の角館小学校を例に見ていきますと、校舎の管理費としては2,700万円ほど年間維持費かかりま

す。それに加えて、②は通学対策の費用として、遠距離通学補助。これは、民間のバスやスマイルバス等に乗って通学する場合に、その定期を補助するというものです。それプラス、スクールバスを運行する費用です。このスクールバスを運行する費用については、年割り額で掲載しております。実際には車両を購入し、10年間使うという想定しますと、大体、購入費の自己負担は1千万円ぐらいで、それを年割りすると100万円、それに年間の運行管理費として約400万円、これは路線によって異なりますが、大体ならしてそのぐらいかなという計算です。それで、わかりやすく一律500万円ということで見込みました。それに路線数を掛けた金額、という見方となります。

次に放課後児童クラブです。これについては、通学体制と関連してきますけれども、放課後児童クラブの引き取りが家族送迎が原則ですので、学校が自宅から遠い場合に、毎晩迎えに行くということは非常に負担となります。ですから、当分の間、引き続き統合前の学校ごとに実施して、保護者にとっては希望するクラブを選択・利用を可能とする体制を作りたいと考えました。この点については、所管する子育て推進課と協議していく必要があります。

もう一つはスポ少です。これも非常に関心が高いです。先日の学校適正配置検討委員会の場でも、学校が終わってからの送り迎え、学校まで送り届けて終わったら迎えに行く距離が長いと非常に負担だという話がありました。そういった話を受けまして、どうにかならないものかということで、いろいろ検討しました。緑色の欄にですね、スクールバス下校便というものを考えてみました。統合に伴って、スクールバスを利用する児童がスポ少に参加する場合に帰宅時に利用できる、仮称ですが「スポ少応援便」という形で運行できたらというものです。①・②に関しては、学校が終わったら帰る便でありますけれども、例えば統合した学校の近くでスポ少が

行われる場合、20時に終了した場合に乘せて帰るものであります。こちらも、今後の検討課題ではありますが、そういった体制を作れたら、保護者は安心していただけるのかなと思います。小学校については以上です。

中学校の方をご覧ください。中学校の場合ですけれども、B案は角館と生保内はそのまま存続です。神代、西明寺、松木内の3校が統合し、使用する校舎の第一候補は、神代小学校としました。理由は先ほど説明したとおりであります。C案につきましても、4校の統合校は、第一候補として神代小学校、第二候補として西明寺小学校としました。D案の全市一校の場合は、これは施設のキャパ的に角館中学校以外は非常に難しいだろうということですが、やはり通学負担が最も大きいパターンとなります。

一つずつ細かくは説明しませんが、校舎の整備費、それから学校施設の年間運営費については記載のとおりであります。中学校の場合は、スポ少ではなく、部活動ということになります。統合前の学校で行われていた部活動は、統合校でも継続を基本としたいと思っています。併せて、将来的な地域移行というものも検討していかなければいけないと思っています。

スクールバスの下校便は、6校時下校便というものの他に、部活後の下校便を検討します。部活動は学校管理下で行いますので、18時とか18時半くらいに終わりますから、部活動終了後に運行します。そして、土・日も練習がある場合には、それにも対応して運行するということとなります。

最後は小中一貫校についてです。使用校舎の第一候補に色付けしてはおりますけれども、統合した場合の校舎については、いずれも大きい増改築が必要となります。例えば、B案の3校の統合であっても、神代小学校を使う場合でも、小中一貫校は、人数が少なくとも9学年ですので、9教室必要となります。それに複数クラスがある場合には、もっと教室が

必要となります。11年度で見た場合ですが、3校統合した場合には、12教室必要です。としますと、6教室不足していますので、大きい増改築が必要ということになります。校舎の教室転用だけでは間に合いませんので、新たに拡張して作っていく必要があります。その場合にはものすごい費用がかかると思いますが、未算出となっております。この校舎整備の赤い文字のところは、大きい増改築が必要になるということで、ハード面の課題が非常に大きいということがおわかりいただけるかと思えます。

そして小・中学校が一緒ということでもありますから、通常の下校に加えて、放課後児童クラブ、部活動、スポ少、これらに対応したスクールバスを運行するということとなります。この場合は複雑になりまして、スクールバスは、まず小学校低学年に合わせた運行、そして高学年に合わせた運行、そして部活での運行、そして最後はスポ少での運行ということで、下校だけでも4便運行しなければいけないと。そして、行って来て次の発射までに時間が間に合うかっていうところが難しい地域もあります。そうすれば増車対応していかなければならないといった、そういう課題も見えてきたところで、駆け足で説明させていただきましたが、市民の皆様には提示していく際には、よりわかりやすく行っていきたいと思っています。説明は以上です。

田口市長

はい。学校再編の方向性と今後の進め方について説明がありました。こちらにつきましては、全委員からご意見、ご質問を賜ればと思います。それでは今度は坂本委員の方からお願いします。

坂本教育長職務代理者

はい。まずは、具体的な再編案につきまして、非常にわかりやすい資料を作っていただいたことに感謝申し上げます。本当に細かく調べていただいて、大変ありがたいと思います。

ちょっと個人的な感情が含まれるかもしれませんがけれども、再編案の方で私がちょっと心動かされたのは、A案に対して、それを望まないという人が多かったというアンケート結果です。旧町村ごとの統合を望む市民が多いのではないかと勝手に予想していたのですけれども、そうではなくて、将来的なことまで視野に入れて、いずれまたすぐに再編しなければいけないという可能性もあるということなどを踏まえた上で、A案を望まないという意見や旧町村を超えた統合を希望するという意見があるということに、非常に動いてきたなという印象を受けました。

また、今後の進め方で、9月から11月にそれぞれ意見交換会を予定しているようですけれども、全地域での意見交換会というのは非常に有意義な取り組みだと思います。今までは地域ごとでしたけれども、それぞれ他地域の意見も聞けるというのは、良い機会だと思いますし、小さなお子さんを持つ園の保護者等も一堂に会するという非常に画期的な意見交換会になると思いますので、ぜひ多くの方に参加していただいて、進めていただければと思います。

再編案の小学校、中学校、小中一貫のそれぞれの資料に関してですが、いろいろ課題もあると思います。例えば校舎の整備等に関して、統合校として西明寺小学校を使う場合に、令和11年度には教室が三つ足りないけれども14年度には余ってしまうという、わずか3年の間に3教室が足りなくなったり、余ったりということがやはりありますので、そういったこともきちんと考えて計画を立てていかなければいけないかと思いました。

また、スクールバスについてですが、D案の場合ですと、7時前に出発しなければいけないだとか、さらに、スポ少応援便だと帰りが20時過ぎになるということもありまして、もっともっと細かく子どもたちの生活も考えながら進めていく段階まで来ているなという思いです。まとまらない意見で

すけれども、非常によくわかりました。ありがとうございます。

田口市長                   ありがとうございます。細川委員お願いします。

細川委員                   はい。進め方の案についてですけれども、全園、小学校、中学校の意見交換会が行われるということで、もっと踏み込んだ意見が必ず出るはずだと思いますので、それを基にして最適な案を出していただければと思っております。

再編案についてなんですけれども、私は坂本委員の意見と同じような考えを持っております。やはりD案のスクールバスについては、小学生、中学生もそうなんですけど、やっぱり7時前に自宅を出なければいけないということ、そして小学生のスポ少をやっている子どもが、20時のバスに乗ってうちに帰るとい生活になると、やっぱり勉強の方もちょっと、宿題等も出ると思うので、これもちょっと大変だなと私も強く感じましたので、意見として提案させていただきました。以上です。

田口市長                   はい、ありがとうございます。それでは田口委員お願いします。

田口委員                   はい。これまでの統合と言えば、白岩小学校は今年度限りで閉校になりますし、中川小学校もつい最近といいますか、数年前に統合したばかりですけど、どちらの統合もスムーズにできたのは、やっぱり保護者の理解や地域の理解があったからこそだと思います。今後、統廃合等を進めていく際には、やはり教育長が繰り返しおっしゃっているように、地域住民や保護者との議論を踏まえて、やっぱり納得すること。全面的な納得まではいかないまでも、やむを得ない、統合しかないというような雰囲気、そうした思いに傾いていく必要が

あるのかなと思います。

そういったことを踏まえて、骨子案には、望ましい学校環境として、ある程度20年後を見据えて、1クラス20人程度ということが盛り込まれているわけですが、それを考えると、もうD案しかないわけですが、先ほども申し上げたとおり、地域住民の多数の理解を得るためには、これから協議を重ねたとしても、先ほどのアンケート結果や賛成の意見が少なかったというような実態を見ましても、いきなりD案を提案するのは難しいのかなという印象を受けました。

理想的には、やっぱり先を考えると、最終的にはD案にまとめるしかないのかな、と。ただ、場所とか学校、地域、校舎はまた別の問題とし、10年、20年程度先は、やっぱりD案に集約していく必要があるのかなという感じがいたします。ただ、やっぱりいきなりそのD案の提案というのは、なかなか理解を得られないかなという印象でした。

個人的には、私は小学校と中学校は別の案でも良いのかなというふうに思っています。まだ私の個人的な意見ですし、この場で述べるのが良いことか悪いことかわからないんですけども、私は、小学校はB案、中学校はC案という個人的な考えを、今までの協議も踏まえて、またこうした資料をいただいて持っています。いずれ、そうした踏み込んだ意見交換がなされなければいけないと思いますけれども、なぜそう思ったのかについて、現時点の考えについて、若干説明をしたいと思います。

まず、小学校がB案、中学校がC案でというような案を現時点では持っております。個人的な意見です。軽はずみなことは言えないわけですが、ただ、その理由としては、生保内小学校に関しては、もう令和11年で学年平均17人、17年度には10人と書いてありますけれども、学年によっては10人以下となります。なかなかB案でも厳しい実情か

とは思いますが。理想からいくと、やっぱり20人程度必要なわけで、もう数年後には10人程度になってしまうという現状でありますけれども、先ほどからお話があったように、生保内地区の地域住民の学校にかける思い、あとは、やはり私も4年間生保内小学校に勤めた経験がございますけれども、生保内地区ならではの市民のプライド・町民のプライドっていうのもあるのかなというふうに思いますし、いきなり地域から学校がなくなるっていうことに対して、かなり抵抗感があるのではないかなというふうな思いを持っております。

なぜ中学校はC案でということですがけれども、小学生の通学負担ということも考えて、規模としては理想から外れるわけですがけれども、小学校一年生がやはり6時頃から登校しなければいけないというような通学時間への配慮ですとか、やはり小学生はできるだけ近くの地元の学校で過ごした方が、小学校の低学年、特に低学年は通学、あるいは近隣というようなことで、人数的には厳しいわけですがけれども、教育環境としては最も優先事項ではないかというようなことも考えました。

先ほど教育長が、桧木内地区の説明会で5年後には全く考えが変わったという地域の方もいらっしゃったというお話でしたけども、10年待たなくても5、6年で学校の規模が変わって、子どもたちの様子が変わってくると、住民あるいは保護者の考えも次第に変わってきて、これから10年後にその保護者の意識とか地域の課題意識もがらりと変わってくるのかなと思います。段階的にC案という形での移行も考えられるのではないかなということで、小学校はB案でも良いのかなというふうな考えを持ちました。

中学校はC案ということですがけれども、これは一つ、学校規模としては、中学校は令和14年度には学年平均18人、令和17年度には各年平均15人、令和14年度には20人を切るということもありますし、やはり先ほどからでている

課外活動の選択肢という部分が、中学校の学校生活が大きいということもございました。そういった活動環境を維持するという点や、通学に関わる負担も小学生に比べれば少なくなくて済むのかなど。そういったことも考えて、中学校は一足先という言い方は大変失礼ですけれども、見切ってこの時期に。14年度には、学年だけで男女別の課外活動の維持はなかなか難しいということも考えて、数年後には部活動の広域化ということで、学校合同の部活動の活動も始まりますので、そうしたことも踏まえても、中学校は他校との合同練習が今年からも始まっていますし、部活動の合同参加も可能になっていますし、環境としては数校の学校が一緒になって活動するっていうことは行われていることなので、スムーズに統合も進められるかなというような根拠で、現時点で私自身の個人的な考えですけれども、そのような考えを持っております。少し長くなりました。

田口市長

いえいえ、ありがとうございます。橋本委員お願いします。

橋本委員

具体的な再編案に、スクールバスの本数とか、どの地域からどの地域までは一本でいきますと、途中からは快速になりますというようなことで、どれぐらいの時間がかかるかということを中心に具体的に示していただきましたので、この資料を見て保護者の皆さんも仮に統合になった場合、うちの子はどれぐらいの時間がかかるのかなというのがわかると思いますので、大変良かったと思います。

統合することになった場合、パターンによっては大規模な改修が必要になるというのがありますけれども、大規模な改修を必要とした場合、改修で2年や3年かかるようなものであれば、統合というものがどんどん遅れていってしまうのではないかなというふうに思いますので、その辺のところも加

味して考えていただければ良いのかなというふうに思いました。

理想は新築で一校というお話もありますけれども、それを実現するために、仮に用地買収から始めるようなことになれば、もうその計画が実現というか、可能になった場合にはもうまた別の段階を考えなければならないというふうに思いますので、そこら辺の改修の時期というの、分かれば示した方が良くないかなというふうに思いました。

生保内地区の皆さんの意見が、統合と単独が半々ということですが、半々ということは、前向きに捉える方がこれから出てくるんじゃないかなというふうに私は思います。前向きということは、この後、児童生徒数が減少していくことを考えれば、やはりそういったことを子どものために考えていかなければならないのではないかなというふうに思いました。

今後の進め方で、生保内地区でお話し合いをするときに、どういう形でお話をするのか。例えば、皆さん生保内地域は将来こうなりますけれども、現在のまま統合するというような話し合いになった場合、前のアンケートとか意見交換会で回答がほぼ同じということなので、単独を支持して下さっている方々が、統合を考えるだとか、統合を考えていた人が単独の意見に変わるといふこともあると思いますけれども、具体的な資料を提示することによって、それはある程度、前向きという言葉の意味が統合というわけではないんですけれども、きちんとした資料を見て、考えることができれば、それはある程度理解して下さる方も出てくるんじゃないかなというふうに思います。

通学とかそういうものを丁寧に出して説明して下さっていますし、仮に生保内小学校・中学校をこれから単独で持っていくとなれば、今のままの校舎ではちょっと厳しいため、改修も必要ではないかというふうに思います。説明会の持っ

て行き方が難しいと思いますけれども、できるだけ資料を提示して、丁寧な意見交換をしていただければと思います。

須田教育長

橋本委員の先ほどのご意見に対してですけれども、今、事務局で考えているのは、今までのように班での単なる意見交換会だけではなくて、生保内地区においては、きちんとメリットとデメリットを出して、今日のこの資料にもありますけれども、何時に出発になるとか、人数が増えた場合こういうメリットがあるだとか、例えば神代小学校から西明寺小学校に行ったときにはこういうデメリットもあるなど、きちんと説明した後の意見交換会にしないと。全部任せるのではなくて、きちんとメリット・デメリットを提示して話し合いをしたいと考えております。

田口市長

はい。皆さんからご意見をいただきました。今後の方向性についてでしたけれども、具体的に今後どう進めるかという中で、やはり通学の問題、それから部活の問題、そして生徒数の推移等を今後考慮しながら、より具体的な方向性を示していくべきだというようなご意見だったかなというふうに思います。こちらについても、先ほどの繰り返しになりますが、何が一番生徒にとっての教育環境が良いのか、そういったことも市及び教育委員会とともに考えた上で、地域の皆さんの意見は当然いただきながらも、市の方向性というものを示していく必要があるかと思います。

本日の資料が非常にわかりやすい資料でありましたので、大体の答えが見えてきているのですが、それをこちら側で提示することで、先ほど各委員からもご指摘がありましたが、納得いただけるような方向性を示していかなければ、その地域間の隔たりを作ってしまうことでは厳しい結果となりますので、そこについてはまた慎重に行かざるを得ませんが、いずれにしても具体的な費用負担であったり、通学時間であっ

たりを考慮した上で、市としての方向性を示していきたいというふうに思います。

他に、今後の進め方についてご意見ございましたら、追加でお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。それではこちらの協議案件は終了させていただきたいと思います。

その他何かございますか。事務局の方で何かありますか。それでは、恒例の全員から一言ずつ頂きたいと思いますので、福田次長から順番にお願いします。

福田教育次長 はい。この夏に市民の意見交換会があったわけですが、その場に参加させてもらって感じたことをお話しさせていただきたいと思います。

強く感じたことは、世代によって非常に考え方が異なるということを感じました。例えば、この前二十歳の集いがあったわけですが、そこに集まっている子どもたちというのは、ほぼ生まれてまもなく仙北市民として育った子ども達であります。それから、そういう若者世代の方は意見交換会にはいらっしやいませんでしたけれども、多くいらっしやったのは、小・中学校の子どもがいる保護者世代が大半でしたけれども、やはり保護者の立場としてどう考えるかという意見を持っている世代、そして子どもがもう大きくなって地域がどうあれば良いかを考えている世代、それぞれ本当に考え方が違うなということを感じました。

どれがどうだということはこの場では申し上げられませんけれども、どのタイミングでどういう学校数にするのかが適切かといった話をしていければと思います。以上です。

阿部教育部長 総合教育会議は、市当局と教育委員会が本市の教育のあるべき姿などを共有しながら協議・連携を図っていくために設置されたものであります。ただ、教育だけで理想で物事が進んでいくわけではありませぬし、そこには、妥協点等をどう

生み出していくのかといった点が難しいわけですが、その点に関しましては委員会が進めております丁寧な説明が、これからますます重要になっていくと思います。そこがぶれずにこのまま進めていきながら、市民の皆様には仕方ないなという結論の着地地点を見いだせるよう、職員一同、一丸になって頑張っていきたいという決意を新たにしているところであります。

ただ、教育に関して、その理想だけで物事が進むわけではありませんので、そこには様々な視点、子育てであるとか、福祉であるとか、まちづくりであるとか、先ほど教育長が申し上げた点を、市民の皆様に合わせて説明していくことが大変大切でありますので、その点も私達は忘れずに地域の皆様にお話をしながら進めていくということを含めて、また丁寧に引き続き今後意見交換を説明しながら、確認し、進めていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

赤上副市長

まずは、丁寧な資料の作成や説明、また度重なる市民との意見交換会説明会等、本当にありがたいなと思っております。具体的にお話しいただくことで、市民ももしかすると、角館とか、そういったところに人口集中の波がいくのではないかと。それに伴って、これから10年ぐらいすると、子どもの流れによっては、スクールバスの問題点もまちづくりも根本的に変わってくる可能性があるのかと思いながら聞かせていただきました。

非常にナイーブではありますが、非常に重要な案件であると思っております。引き続き、意見交換会では丁寧な説明をお願いしたいと思います。本日はありがとうございました。

大澤総務部長

私は教育長からご配慮いただいて、各説明会に参加させてい

ただいております。まちづくりの観点からいろいろな意見があるだろうと参加させてもらいましたけれども、やはり正直なところ、なかなか参加者が少なくてですね、そういったまちづくりの観点までいっていなかったというのが、残念なところだなというように思います。

私も生保内の出身の人間として少し思うことを語らせていただきますけれども、合理性だけを求めるのが統廃合ではないと思います。ですから、D案は厳しいので、C案にという流れかとは思うのですが、この生保内地区というのは、先ほど市長が言ったように、庁舎再編でもいろいろな意見を持っている方が多いというところありますので、そこをうまくやらないと難しい面があるのかなというふうに思います。

ですから、子どもの話だから親だけでいいのかって話じゃなくて、やっぱり地域の説明というか、非常に意見を多く持っている人がいますので、そこをないがしろにしないような進め方をしていかないと、仙北市そのものに影響するのかなと。少し大きさかもしれないですけど、そのように感じますので、生保内地区だけの問題と言われればそれまでなんですけども、ここはやっぱり本当に丁寧に説明を重ねて、議会も巻き込みながらやっていかなければ厳しいのかな、というのが私の思いであります。以上です。

猪本総務課長

これまでの約3年間の検討や意見を聞いたということで、3年の期間は長いなと思ったのですが、あっという間だったなとも思っております。これまでは意見を聞くことが主だったと思いますが、これからは市の意見を出していくってところが主になり、今まで以上に力がかかる時期に来ているのかなと感じております。

また、決める時期や地域をどの案で落とし込むかっていうところを決める時期が目前に迫っているなということを、今日の会議に参加して危機感というか、期待感を感じたところです。

仙北市にとって大きな分岐点になると思っておりますので、これからも丁寧に説明を進めていただきたいと思いますと思っております。

毛利学校適正配置準備室参事 常々、学校が地域から無くなると、地域の衰退を懸念する声などの意見交換会でも聞こえております。

この間、生保内節盆踊り大会が田沢湖庁舎の駐車場で行われまして、参加人数は300人で、その中にやはり、小学生、中学生、高校生が友達とちょっとおしゃれな服を着て来たり、屋台を楽しみに出てきたりするという姿が見られて、私がいる大曲でも、春・夏・秋の花火の際に屋台が出るのですけれども、それを主催者から、イベントをやると洋服屋が儲かるっていう話を聞きました。イベントに合わせて小・中・高生が服を新調するから、俺たちはアパレル業界を支えているとおっしゃってました。というふうに、楽しい出来事が人とか経済を動かすんだなと感じました。

生保内節盆踊り大会でも子どもたちがお金を手に、お小遣いを握って来ていて、そして楽しい思いをしているところもあるので、今はもちろん適正配置準備室として、学校統廃合のことを考えてはいるのですけれども、そういう地域の楽しいことっていうところも大事にしながら、何かしら自分で参加しながら、手助けできるところはないかなというふうに考えながら、過ごしております。ちょっと脱線していますが、以上です。

若松学校適正配置準備室長 これまでも市民の意見を大事に尊重しながら積み上げてようやくここまできたわけですが、この先もいろいろこれから本来具体的な話をしていくということでより市民に寄り添って進めていきたいとは思っているところです。

一方で、これまでの意見交換、あるいはアンケートの中でも、統合ということになれば、やっぱり地域の形や姿が変わることによって、地域の衰退を心配する声が多くありました。ほかの

先進自治体を視察した際にも、学校がなくなった地域では、移住・定住に力を入れているそうですが、ここに戻って来て欲しいと言ってもよいのだろうか、そういうご意見もありました。

統合を通して街をどうしていくのかということも、非常に重要だなと感じております。そうした場合に、教育委員会ではその部分までなかなか主体的にはいきませんので、市当局を中心に考えていかないといけない課題だなと感じたところです。

丹野学校教育  
課長

まずは絶対に解消しなければならないことだと思いますが、スクールバスの運行に当たっては、路線が増えるということであれば、昨今、大型のドライバーが不足していると常に言われていることなので、今後の課題になり、解決していかなければならないのかなとは思いました。

また、それに限らず、具体的な再編案を提示すればするほど、そういった細かい課題が出てくるのかなと思いました。以上です。

草彅建設専門  
官

私は昨年度から適正配置の仕事に関わらせていただいております。その中で、各地域へ何回か先進地視察をさせていただいております。私の場合、ハード的な面のお話をさせていただきますと、できれば比較的新しい学校を有効活用することが、やはり一番ではないかなとは思っています。

やはり、多地域から視察でお話をお聞きしますと、思ったほど国庫補助金が出ないです。一応、書物には補助率2分の1というような表示がありますがけれども、それは実勢価格に対する2分の1ではなくて、国で定める建築単価に対しての2分の1ということになりますので、実勢価格で計算しますと、到底2分の1には届かない補助になります。これは、例えば新しく建てる場合の話なんですけども、改修するにしても何でも、国の補助を使うにあたっては、国の補助率でそのまま入ってこないということは頭入れておかないといけないなと考えておりま

す。

そうした中でも、既存の学校を利用するということはもちろん、新たにいろいろなものを作るっていうよりは、進め方を早めていけるのではないかなとも思いますので、私はこの部分について、今後、深掘りしていきたいなというふうに思っております。

湯澤教育総務  
課長

この後、生保内地区をはじめ、各地区で更に議論や意見交換を深めていくわけですが、まずは配置計画骨子案にあります「望ましい学校規模」がベースとなる考え方はもちろんのこと、この度出ました使用校舎、通学、放課後児童クラブ、校舎整備の考え方、整備費といったところを加味した形で検討されますので、そういった部分をやはり市民の方々は、時間も限られておりますので、なかなか理解が難しい部分もあるかと思えます。その中でも、わかりやすく丁寧に、更にこの後も続けていく必要があると感じたところです。以上です。

斉藤北浦教育  
文化研究所長

先ほどから、皆様からも出ておりましたけれども、やはり地域の理解、保護者の理解がすごく重要で、全園、小・中学校の保護者による合同意見交換会への提案の仕方が鍵になると思います。提示の仕方をどのようにしていくのかということ、やはりしっかりと検討しなければいけないと思いました。

特に、小学校のスポ少では、スポ少応援便を検討していくことにしていますが、スポ少は様々な場所で行われておりますので、なかなか単純にはいかないはずで、かつて、保護者からは学校宛てに、活動を他校と合同で行う場合の送迎に関して相談があったこともありますので、そのあたりを細かく押さえながら、どのような課題があるのか、どのような対応ができるのかを捉えながら提示していくことが大事でないかと感じました。

佐々木主事

私はスクールバス下校便についてですが、様々な運行

パターンを想定していて、距離が離れた仙北市だからこそ、地域の特色に合わせていろいろ配慮されていることは非常に良いことだなと感じました。ただ、先ほど委員の皆様からもご意見があったように、始発や帰り時間等による子ども達の拘束時間やドライバー不足など、他にも懸念する点が多く出てくるかと思うので、そういったところも含めて更に深めていければ良いのかなと思いました。

須田教育長

いろいろと貴重なご意見ありがとうございました。子どもファーストを基にしながらも、様々な意見交換をして、よりよい学校適正配置、いわゆる統合を目指していきたいと思います。また今後ともよろしくお願いたします。

田口市長

私からも最後に今日の皆さんの意見をまとめて、結論というか非常に重要なことだなと思うのは、今後の人口減少、子どもの数の推移っていうものを直視するという、受け入れるということだと思っています。そして、この各地域に暮らす方々、地域の声にしっかり耳を傾けること。それから、保護者、生徒、教師、現場の皆さんに声をしっかり聞くこと。これらが、意見交換会の実施になっております。

そして皆さんからもご指摘されました、市のまちづくりの方向性。市が考える教育環境のあり方、今後の地域のあり方、そういったものが、やはり今後の学校適正配置には大きく影響を与えることとなりますので、そこをしっかりと示すこと、そしてもう一つ重要なのは財政負担であります。できること、できないこと、それによって現校舎を利用するとかリフォームするとか、新しい校舎を建てれば一番多分良いのかなというふうに思いますが、現段階では残念ながら仙北市の財政状況は大変厳しい状況にありますので、選択肢の一つとして検討することは可能だと思いますし、今後の財政の改善といったものも間違いなく進めてまいりますけれども、現段階での新校舎の建築といっ

たものはなかなか財政的にはできないことの部類に入るのかなというふうに現実的には思っております。

ただし、皆さん共通の認識としては、生徒にとってとにかく一番良い教育環境の実現といったものが重要であって、それこそが地域や市民からの理解、納得といったものに繋がっていくと思いますので、皆さんからご意見賜りました市や教育委員会の方でしっかりと今後具体的な考えを示しながら、また地域の皆さんの意見や考えている声に寄り添って、しっかり声を拾って、この学校適正配置進めてまいりたいと思います。これをまとめとさせていただきたいと思います。

それでは他に何かございませんでしょうか。よろしいですか。それでは協議は全て終了いたしますので、総務部長に進行をお返しします。

大澤総務部長      はい、田口市長ありがとうございます。様々なご意見をいただきました。本当にありがとうございます。それではこれをもちまして、令和6年度第1回仙北市総合教育会議を終了いたします。

(午後3時05分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員